

資料3 本検討会に向けたアンケートの実施結果

調査概要

- 消防学校の教育訓練等における課題を把握するため、都道府県消防学校及び指定都市等の消防学校に対して調査を実施。
- 調査項目は以下の3点。
 - 問1 「消防学校の教育訓練の基準」に係る事項で課題に感じていることは何か
 - 問2 「消防学校の施設、人員及び運営の基準」に係る事項で課題に感じていることは何か
 - 問3 問1、2以外の事項で課題に感じていることは何か

「消防学校の教育訓練の基準」に関する主な意見

【背景】災害の大規模化・複雑化・多様化により、消防学校に求められる知識・技術が増大。現行の教科目・時間数の見直しが必要との声がある。

1 教育内容・時間数の見直し

- 安全管理、現場指揮、図上訓練、消防活動訓練等の現場活動に直結する科目の充実が必要
- 実務的な教育訓練を追加すべきとの意見

アンケート結果（意見数）

- 「単位時間数の見直し」 9件
- 「カリキュラム・教科目構成の見直し」 9件

2 教科目の整理・重点化

- 類似・重複する教科目の統合が必要（例）

初任教育



救急科

危険物科



予防査察科

等

3 地域実情への柔軟な対応

- 地域特性や災害形態に応じた教育が必要
- 教科目・時間数について、消防学校に一定の裁量を与えるべきとの意見

4 消防学校と消防本部の役割分担の明確化

消防学校：基礎的・専門的な教育
消防本部：OJT・実務教育

➡ 教育範囲の明確化が必要

「施設、人員及び運営の基準」に関する主な意見

1 DX・ICT教育環境の整備

- VR教材、タブレット端末、電子教科書等のデジタル教材の活用が必要
- 教育の高度化、教員の労務負担軽減につながるとの期待

2 教員数の不足

- 現行基準では教育の質・安全管理体制に不足感
- 教員数算定に関する補正係数の引上げ・見直しを求める意見あり

教員数の算定方法（現行）

$$\text{必要教員数} = 0.09 \times \frac{\text{最繁忙時の学生数}}{\text{学生数}} \times \text{補正係数}$$

※補正係数は、最繁忙期の学生数に応じて設定

3 寮・宿泊体制

- 寮の収容能力不足
- 通学による教育訓練に関して認めるべきとの意見

4 教員要件の明確化

- 「相当の学識経験」だけでは不明確との意見
- 消防大学学校教育修了等を要件として明確化するべきとの意見

5 多様性への対応

- 女性活躍推進、LGBTQの観点から、宿直室の個室化、専用施設の整備を基準に明文化すべきとの意見

その他の主な課題

教育訓練ICT化に対する財政支援

現場からの主な意見

- タブレット等のデジタル教材導入には費用負担が大きい
- タブレット・デジタル教材・通信環境整備が必要
- ランニングコストを含めた継続支援が必要
- 地方消防学校単独では整備が困難

必要とされる支援

項目	内容
初期整備支援	VR・ICT機器導入
維持管理支援	更新費・通信費
教材支援	eラーニング・教材共有
制度支援	国の継続的な財政措置

アンケート結果（意見数）

